

きゅうり
(1) 耕種の防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
うどんこ病	生育中	○ ハウス栽培では外の冷たい風が入らないように換気を工夫する。 ○ 乾燥をさけて一定の湿度を保つ。 ○ 抵抗性品種を使用する。
疫 病 (立枯性疫 病)	植付前 生育中	○ 床土を無病土に更新する。 ○ 支柱その他の資材を消毒する。 ○ 連作を避け、輪作年数を4年以上とする。 ○ 灌水は井戸水や水道水を用いる。 ○ 発病株は抜き取って、適切に処分する。 ○ 露地での全般発生期は、7月下旬～8月上旬であるので、薬剤の灌注時期をのがさないようにする。
黄 化 病	植付前 生育中	○ 播種床を寒冷紗で覆う。 ○ 育苗ハウスでは、ハウスの出入口及び側面に寒冷紗を張る。 ○ 早期に発病した株は、収穫が期待できないばかりでなく、伝染源となるので、早めに抜き取って処分する。 ○ 媒介昆虫のオンシツコナジラミを防除する。 ○ 防虫ネットを設置し、オンシツコナジラミの侵入を防止する。
褐 斑 病	植付前 生育中	○ ブルームレス台木を使用すると発病が助長される。 ○ ハウス栽培では換気を十分に行いハウス内が高温多湿になるのを防ぐ。 ○ 下葉の老化した発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ○ 窒素過多、肥料切れはともに発病が助長されるので、適切な肥培管理を心がける。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病跡地では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いるとともに、低温多湿にならないように注意する。 ○ 開花中の花が多い時期の防除を徹底する。 ○ 低温多湿のときに発生しやすいので、早期発見に努め徹底防除を行う。 ○ 発病株は抜き取って適切に処分する。
黒 星 病	植付前 生育中	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ ハウス内及び支柱その他の資材を消毒する。 ○ 低温多湿のときに発生しやすいので、早期発見に努め徹底防除を行う。
炭 疽 病	植付前 生育中	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 資材を消毒する。 ○ 敷わらを行い、雨滴の飛散を防ぐ。 ○ 被害株を適切に処分する。
つる枯病	植付前 定植時	○ 支柱、資材の消毒を行う。 ○ 無病苗を選んで植える。
つる割病	植付前 生育中 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 接木栽培を行う。台木にはクロダネカボチャや雑種カボチャを用いる。 ○ 連作を避け、輪作年数をできるだけ長くする。 ○ ネコブセンチュウ抑制する緑肥を間作に作付けする。 ○ 土壌の塩類集積が進むと発病が多くなる。 ○ 発病株は、早期に抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病地では、全株を集めて適切に処分する。
苗立枯病	植付前	○古い育苗培土は使用しない。
灰色かび病	植付前 生育中	○ 敷わらを行う。 ○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ ハウス内が多湿にならないように注意する。 ○ 開花中の花が多い時期の防除を徹底する。 ○ 被害株は抜き取り、適切に処分する。

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
斑点細菌病	植付前 生育中 収穫後	○ 畑土の排水を図り、多湿にならないようにする。 ○ ハウスでは通気を図り、多湿にならないようにする。特に二重カーテン使用時は多湿になりやすいので、注意が必要である。 ○ ハウス内では、構造による差もあるが、温度が低く湿気の滞りやすい場所に初発しやすいので、特に注意してハウス内の巡回を行う。 ○ 被害葉や被害果を放置したまま薬剤散布を行うと効果が低下する。 ○ 全面ポリマルチをして土のはね上がりで多湿を防ぐ。 ○ 初発時期に防除の徹底を図る。 ○ 被害茎葉は、随時、支柱等に付着しているものまでいねいに集めて焼却する。 ○ 全株を集めて適切に処分する。
べ と 病	生育中	○ 敷わらをを行い、雨滴の飛散を防止する。 ○ ハウス栽培では多湿にならないように注意する。 ○ 肥料切れや根傷みにより発生しやすいので適正に肥培管理を行う。
モザイク病	生育中	○ シルバーストライプマルチを行い、有翅アブラムシの飛来を抑制する。 ○ アブラムシ類の発生源となる周辺雑草を除草する。